

厚生労働科学研究費補助金(政策科学推進研究事業)
医療安全地域連携加算等による医療経済・医療安全上の影響の検証と
効率的かつ効果的な体制構築に向けた研究

分担研究報告書

特定機能病院におけるピアレビューの運用の実際と改善案の探索～質的分析から～

研究分担者 山口 悦子(中上 悦子) 大阪公立大学大学院医学研究科/
医療の質安全管理学・准教授
医学部附属病院/医療の質・安全管理部・
病院教授

研究要旨:本分担研究では、全国の特定機能病院で行われているピアレビューの運用実態、医療安全への影響、および課題を分析し、より効果的なピアレビューの運営に向けた改善案を探索した。研究方法として、まず研究班以外の国公立大学附属病院2施設の協力を得て、オンラインでフォーカスグループ・インタビューを実施し、協力2施設の議事録の要約を基に質問紙を作成した。次に全国の特定機能病院の関係者にウェブアンケートフォームで回答を依頼したところ、95名から回答を得た。回答のうち、アンケートの自由記載項目である「短期的な方向性に関する提案(ピアレビューで検討したい重点項目)」「現行のピアレビューについて」「死亡事例の検討とピアレビューに関する意見」「そのほかの意見」について内容分析を行った。ピアレビューで検討したい重点項目は、近年の医療安全管理部門における担当業務範囲の拡大傾向を反映し、多岐にわたっていた。現行のピアレビュー制度は、厚生局や保健所の立入検査や監査委員会とは異なり、実務者レベルの具体的な意見交換・情報交換の場として機能している。また、医療安全管理業務や病院の医療安全活動の改善のための実効的な手段として、多くの実務者がその意義を実感していることが明らかとなった。死亡事例や医療事故調査制度に関する議論をピアレビューで行うことについては、慎重な意見や反対意見も一定数存在した。そのため、まずは各施設が相談したい内容を互いに提示し、「指摘」ではなく「情報交換」として始めることが、今後につながる取り組みと考えられた。さらに、年々増加する医療安全管理部門の業務負担に対応するため、日常業務に支障をきたさないよう、ピアレビュー関連業務の効率化や運用の標準化が求められていることも明らかとなった。

研究協力者

徳和目 篤 大阪公立大学医学部附属病院
医療の質・安全管理部
副部長

A. 研究目的

(背景)平成29年の医療法改正で追加された特定機能病院間のピアレビュー、そして、平成30年に新設された「医療安全地域連携加算」により、医療機関間の医療安全の連携が可能となったが、これらの連携による医療経済や医療安全の観点での効果は明らかにされていない。また超高齢化社会を迎え介護現場の医療安全の強化も喫緊の課題である。

(目的)そこで本研究課題では、医療経済学及び医療安全学の観点から、医療安全地域連携加算や特定機能病院間のピアレビュー

による影響を検証し、効率的かつ効果的な医療安全の連携体制の構築(介護施設等含む)に向けた提言を行う。

<本分担研究の目標>全体の研究計画に基づき、全国の特定機能病院で行われているピアレビューの運用面における実態と医療安全への影響、課題を分析し、より効果的なピアレビューの運営を目指した短期的・中長期的改善案について探索する。

B. 研究方法

【データの収集と分析方法】

1. フォーカスグループ・インタビュー

対象:研究班以外の国公立大学附属病院4施設に依頼し、うち2施設から期間内に協力を得た(以下、施設名をA、Bとする)。

施設 A は医師と事務職員、施設 B は医師、看護師、事務職員、薬剤師が参加した。
 データ収集:オンライン会議システムを用いて、フォーカスグループ・インタビューを実施した。オンライン会議システムの録画機能から出力された音声データを書き起こし、分担者が議事録を作成し、施設側と共有した。
 分析;2施設の議事録を比較し、①現行のピアレビューの評価、②現行のピアレビューの課題、③今後のピアレビューの改善案、④そのほかの意見について要約した。
 2. 質問紙調査
 対象:全国の特定機能病院
 データ収集:(1)で収集した意見を基に、質問紙を作成した(別添〇)。

表 1. 質問項目

＜質問項目＞ ①ピアレビュー制度の改善を目指した短期的な方向性に関する提案(選択肢、自由記載) ②ピアレビュー制度の改善を目指した短期的な運用上のアイデア(選択肢) ③中長期的な提案についての意見(選択肢) ④現行のピアレビューについて(自由記載) ・ピアレビューに期待したいこと ・医療安全上の改善に結びついた事例 ・ピアレビューの結果に関する自施設内の共有方法 ・ピアレビュー以外の連携や取り組み ⑤死亡事例の検討とピアレビューに関する意見(選択肢、自由記載) ⑥そのほかの意見(自由記載)
--

調査はウェブアンケートフォーム(Google フォーム, Google 社)を用いて実施した。QRコードを印刷した用紙を、特定機能病院の医療安全管理部門宛てに郵送し、回答者の職種や人数は制限せず、任意で回答を依頼した。
 分析:本分担研究では、上述の項目のうち「①短期的な方向性に関する提案(ピアレビューで検討したい重点項目)」、「④現行のピアレビューについて」、「⑤死亡事例の検討とピアレビューに関する意見」、「⑥そのほかの意見」に回答された自由記述のテキストに対し、質的データ分析ソフト(Nvivo ver.14, Lumiere 社)を用いて内容分析を行った。
 【倫理的配慮】分担者の所属する施設の倫理委員会に相談し、本分担研究が倫理的な配慮を必要とする被検者・対象者を含まないことを確認した。インタビューデータの分析に際しては、意見提供施設および発言者の個人名を特定せず、回答も匿名で収集した。

C. 研究結果

1. フォーカスグループ・インタビュー 以下に協力 2 施設の意見をまとめる。

表2. 協力 2 施設の意見

(1) 現行の評価	
共通	・同業者の視点で話ができ、他施設の意見を聞きやすく、気づきの機会。 ・業務の見直しや改善の機会。
(2) 現行の課題	
共通	・共通の意見:チェックリストは毎年、ほぼ同じ内容で、現地でのチェックが形骸化しているのではない。
独自	・院内の日程調整に難渋する。 ・移動距離が長く日常業務に影響がある。 ・来訪者の指摘にばらつきがあり対応に困る。 ・立ち入り検査等と時期が重なり業務負担となる。 ・立ち入り検査等との違いが不明瞭。
(3) 改善案の提案	
共通	・ペアの組み合わせを一つにしてほしい。 ・オンラインも活用してほしい。 ・内容を見直し、特定のテーマについて話し合う場にしてほしい。
独自	・事前の書類(チェックリスト)はウェブアンケートフォームを活用して収集してほしい。
(4) その他の意見	
共通	・死亡事例の検討については難しい。管理者同士で話してもらう必要があるのでは。
独自	・管理者や医療安全管理責任者の医療安全の知識レベルに差がある。研修や役割、資格を見直してはどうか。 ・国公立大学では「ピアレビュー」と「相互チェック」が両方行われていて負担であり、見直しを望む。

2. 質問紙調査の分析結果

(1)回答者の施設と医療安全における役割
 総計 95 名から回答を得た。所属と医療安全における役割は下記に示すとおりである。

表3 回答者の施設と医療安全における役割

	総計	管理者	医療安全管理責任者	医療安全管理者				専任事務 その他
				医師	看護師	薬剤師	その他	
国立	69	1	6	19	17	12	1	13
公立	23		2	12	3	1		5
私立	3		1	1	1			
不明	3		1	1	1			
総計	95	1	9	32	21	13	1	18

(2)自由記述の内容分析

①ピアレビューで検討したい重点項目

検討したい重点項目として、以下の意見が挙げられた。

- ・医療事故調査制度に関すること
- ・医療の安全に資する診療内容のモニタリングと改善状況
- ・事例の報告と検討
- ・マニュアルの中央管理
- ・患者誤認
- ・システムズアプローチ
- ・安全文化の醸成
- ・院内迅速対応システムに関すること
- ・生体情報モニタの管理
- ・高難度新規医療技術・未承認医薬品等
- ・身体拘束最小化チームの活動
- ・医療倫理活動
- ・IC や診療録適正記録のチェック体制
- ・働き方改革への対応
- ・医療の質向上を目指した取り組み

その他、「形式的なチェックリストの確認をせずに重点項目を優先すべき」という意見、「重点項目の議論だけでなく、網羅的な確認は必要」という意見も見られた。

②現行のピアレビューについて

1) ピアレビューに期待したいこと

ピアレビュー制度に対して、「他の監査・検査体制とは異なる、実務者レベルの具体的な意見交換や情報交換の場」として期待する意見が多く見られた。具体的な意見は以下のような内容であった。

- ・困っていることを相談できる
- ・専門家同士による、懲罰的ではない指摘や意見交換を行う
- ・現地に立ち入り、他院の取り組みを自院の改善に活かす
- ・自施設の取り組みを見直すきっかけとする
- ・課題解決の工夫や進んだ取り組みを議論・共有する
- ・調査票以外のことも相談・共有する
- ・重点項目の深い議論を行う

その他、「自施設の経営陣や他の部署に対する強制力」としての意義や、施設間の「ネットワークづくり」、「体制や取り組み内容、人員配置に関しての特定機能病院間の平準化」に対する期待があった。

2) 医療安全上の改善に結びついた事例

「業務上の様々な気づきと改善につながった」という意見が多く見られた。具体的な事例として、医療安全管理部門の業務改善に関する事例が多く見られた。

- ・インシデント報告の活性化
- ・医療安全に資するモニタリング
- ・医療安全のマニュアル

- ・医療安全研修
- ・定期院内ラウンドの方法
- ・医療安全管理部門への人員配置に関すること
- ・医療安全管理業務の効率化やコスト削減

また、特定機能病院の要件に関する改善事例として、以下の事例があった。

- ・高難度新規医療技術・未承認新規医薬品等の体制・運営・実務
- ・監査委員会に関する業務

その他、「死亡事例報告や医療事故調査制度」、「病院全体の医療安全活動」「その他の活動」について事例が挙げられた。

- ・死亡事例報告や医療事故調査制度に関すること
- ・病院全体の医療安全活動
 - 院内迅速対応システム等急変対応に関すること
 - 中心静脈穿刺に関するライセンス制度導入
 - 生体モニタに関すること
 - 薬剤管理に関すること
- ・その他
 - DNAR の情報を共有する仕組み
 - Patient Flow Management の体制構築

3)ピアレビューの結果に関する自施設内の共有方法

自施設内で最も多かった共有方法は「医療安全管理委員会」で、「部署担当者を通じた共有」、「病院運営に関する全体会議」、「医療安全研修」と続いた。「共有していない」と回答した施設もあった。

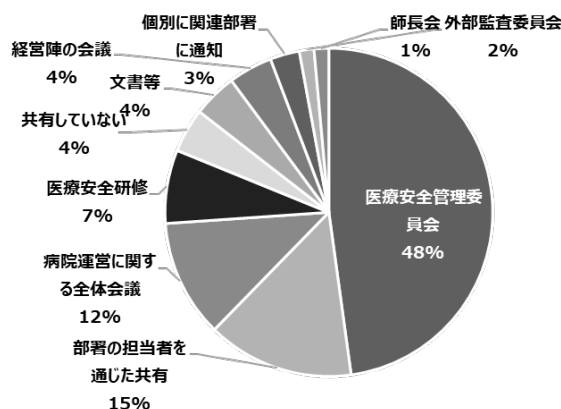


図1 ピアレビューの結果に関する共有方法

4)ピアレビュー以外の連携や取り組み

ピアレビュー以外の連携としては、大学病院間や職種ごとの GRM の会合およびメーリングリスト、都道府県内の病院間、厚生局管

内や地域の病院との取り組みが多かった。連携やネットワークを持たない施設もあった。

図2 ピアレビュー以外の連携や取り組み

③死亡事例の検討とピアレビュー

死亡事例の検討や医療事故調査関係の議論をピアレビューで行うことについて、職種ごとに意見を集約した。いずれの職種も約半数以上が賛成であった。

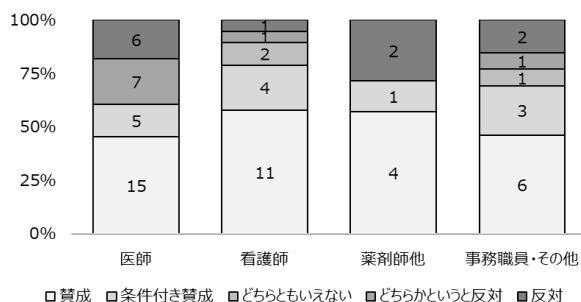


図3 死亡事例の検討をピアレビューで行うことに対する意見の内訳

条件付きの賛成意見や反対意見は、以下のような内容であった。

- ・一般論としての意見交換やアドバイスなら有意義。標準化された判断基準は難しいのでは。
- ・各病院で背景や事情が異なっているため、意見交換や改善は難しいのでは。
- ・懲罰的な指摘や「事故調査をすべし」といった指摘があると困る。
- ・個人情報など機密情報も含むので難しいのでは。
- ・議論するとなれば、準備に時間が必要。
- ・他の項目もある中で時間が足りないのでは。

また、そもそも制度が異なるのでピアレビューで行うのは適切ではないという意見や、導入するとしてもよく検討してから、といった意見があった。

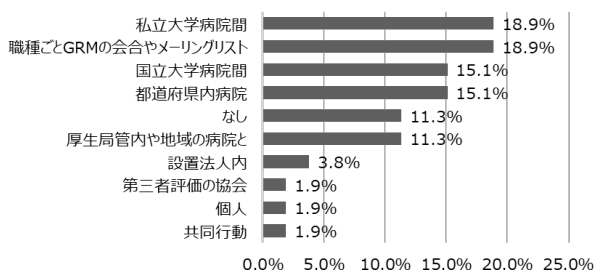
③そのほかの意見

そのほかの意見として最も多かったのは、「業務負担の低減」に関するものであった。具体的な内容は以下である。

- ・現状の負担感と効率化への期待
- ・厚生局の立ち入り検査等との重複を避け、書式を早く配布するなど事務業務の負担を軽減
- ・日程調整の方法の標準化
- ・移動を考慮した効率化
- ・組み合わせの効率化と負担軽減
- ・訪問者を限定して、受け入れ側の負担と訪問側の日常業務への影響を少なくする
- ・検食の手配を強制しない
- ・資源を投入してほしい

その他、「現地に立ち入ることの意義」や「項目を絞って有効な議論をする」ことへの期待も見られた。さらに「組み合わせの相手

によって指摘が異なる」ことへの困惑も見られた。



D. 考察

本研究では、2つの特定機能病院の職員に対するフォーカス・グループインタビューの結果をもとに調査用紙を作成し、全国の特定機能病院の関係職員に対してアンケート調査を実施し、結果のうち、自由記述で回答されたデータを分析した。

(1) ピアレビューの現状と意義

回答者は、三分の2が国公立大学医学部附属病院に、三分の一が私立大学医学部附属病院とその他の特定機能病院に属していた。職種別にみると、回答者の4割強が医師であったが、そのほとんどは専従の医療安全管理者で、管理者は1名、医療安全管理責任者は9名であった。郵送先が医療安全管理部門であったことで、管理者・医療安全管理責任者までは依頼が回らない施設が多い中、回答した10名の管理者・医療安全管理責任者は、医療安全に対して高い関心を持っていることが推測された。

自由記述のテキストデータを内容分析した結果、回答者らがピアレビューの重点項目として検討したい事項は多岐にわたっていた。これは、近年の医療安全管理部門における担当業務範囲の拡大傾向と関連している。現場では対応に苦慮すること多いと推測され、「ピアレビューに期待したいこと」として「他の監査・検査体制とは異なる、実務者レベルの具体的な意見交換や情報交換の場」や「ネットワークづくり」が挙げられていたことも、この状況を反映している。医療機関の連携状況については、多くの施設が大学病院間や地域の病院間でネットワークを構築していたものの、そのような連携体制を持たない施設も存在した。このような施設にとって、ピアレビューは医療安全管理体制の改善における重要な機会および仕組みとなっている。

一方で、「医療安全上の改善に結びついた事例」として、「医療安全管理部門の業務改

善」や医療安全管理部門が主導・関係する業務の改善事例が多く報告されていた。このことから、現時点でのピアレビューの仕組みは、現場レベルでの有意義な情報交換の場として機能し、実効性のある改善の手段となっていることが伺える。

(2) 今後に向けた課題

今後の課題の一つとして、現行のチェックリストに基づく確認作業を現地で実施する可否かという点が挙げられる。重点項目を議論したいという意見が多い中、網羅的な確認の重要性も指摘されており、今後はオンラインの活用などによる効率的な確認体制の構築が求められる。この網羅的な確認体制は、ピアレビューへの期待として挙がっていた「体制や取り組み内容、人員配置に関しての特定機能病院間の平準化」や「自施設の経営陣や他の部署に対する強制力」とも密接に関連している。効率的な確認体制が確立され、全国の特定機能病院の体制・活動内容・人員配置が公表・共有され、標準的な「あり方」が示されることで、各施設の設置者・管理者・経営陣への説得力となり、特定機能病院全体の医療安全管理体制の向上につながる事が期待される。

次に、死亡事例や医療事故調査制度に関する検討をピアレビューで行うべきかという課題がある。死亡事例報告および医療事故調査に関する意見は、実務上の相談事項や運用上の改善事例として多く挙がっていた。一方で、検討事項として取り上げることについては、各施設の背景や事例ごとの事情、個人情報などの機密性の高い情報を扱うこと、また別制度であることなどを理由に、慎重な意見や反対意見も一定数存在した。さらに、「べき論」や懲罰的な指摘を懸念する声も聞かれた。現状、立ち入る医療安全管理責任者の実務経験や医療安全活動へのエフォートには大きな差があり、また医療安全管理者たちには実務上のニーズがあることを考えると、まずは各施設が相談したい内容を互いに提示し、「指摘」ではなく「情報交換」として始めることが、今後につながる取り組みと考える。

三つ目の課題は、ピアレビューに伴う業務負担の軽減である。現場ではその意義が十分に理解されている一方で、今後の業務の効率化と運用の標準化を求める声が多い。具体的には、書類作成の効率化、日程調整などの関連業務の標準化、立入者数の適切な制限など、日常業務を妨げない運用方法

が求められている。さらに、厚生局・保健所の立入検査や監査委員会との役割の区別を明確にすることも必要とされている。

E. 結論

現行のピアレビュー制度は、厚生局や保健所の立ち入り検査や監査委員会と異なり、実務者レベルの具体的な意見交換・情報交換の場として、医療安全管理業務や病院の医療安全活動の改善のための実効的な手段として機能しており、多くの実務者が意義を実感していることがわかった。一方で、年々増加する医療安全管理部門の業務負担に対応するため、日常業務に支障をきたさないよう、ピアレビュー関連業務の効率化や運用の標準化が求められていることも明らかとなった。

F. 研究発表

1. 論文発表

なし

2. 学会発表

- 山口(中上)悦子. ピアレビューについて. 第11回医療安全学会シンポジウム(患者安全を高める施設同士の連携「一厚労科研から見た患者安全ネットワークの現状とこれから」). 2025.3.16 ウィンク愛知. 名古屋.

G. 知的財産権の出願・登録状況

1. 特許取得

なし

2. 実用新案登録

なし

3. その他

なし

別添) 質問紙

質問項目	質問項目(詳細1)	質問項目(詳細2)	回答方法	選択肢詳細
メールアドレス			記載 (必須)	
医療安全管理における役割を選択して下さい			選択肢	管理者、医療安全管理責任者、医療安全管理者(医師、看護師、薬剤師)、専任事務職員、その他
1. ピアレビュー制度の改善を目指した短期的な方向性に関する3つの提案についてお聞きします	1-1) ベストプラクティスを互いに共有する機会とする		選択肢	そう思う、どちらでもよい、そう思わない
	1-2) 体制についてチェックリストで網羅的に確認するのではなく、重点項目を絞って深く議論する		選択肢	そう思う、どちらでもよい、そう思わない
	1-2a) 具体的な重点項目について案があればお聞かせください		自由記載 (任意)	
	1-3) 医療事故調査制度における事例の検討や判断について、意見交換をする		選択肢	そう思う、どちらでもよい、そう思わない
2. ピアレビュー制度の改善を目指した6つの短期的な運用上のアイデアについてお伺いします。	2-1) 継続的に調査すべき項目は書面調査(データ収集と確認)のみや、現地で行う場合は短時間にして、重点的に話し合う時間を確保する。		選択肢	そう思う、どちらでもよい、そう思わない
	2-2) ExcelではなくWebアンケートフォームを活用し、事務局および各施設での配布やデータ収集を効率化する		選択肢	そう思う、どちらでもよい、そう思わない
	2-3) 組み合わせは、1年あたり訪問・被訪問の1組にする(現行では、国立・公立のグループでは、訪問する大学と訪問を受ける大学が異なっていて、調整に難渋している)		選択肢	そう思う、どちらでもよい、そう思わない
	2-4) 現地視察や管理者へのアドバイスが必要な項目だけ現地派遣して、立ち入る人数を減らす		選択肢	そう思う、どちらでもよい、そう思わない

	2-5) オンラインを活用する(体制の確認などの継続的なチェック項目は、同日あるいは別日にオンラインで行う、など。同日の場合は、現地立ち入り者とオンライン対応者に分かれるという意味。日常業務を遂行する人員が自施設に残れるようにするため。)		選択肢	そう思う、どちらでもよい、そう思わない
	2-6) 重点項目のみを深く議論する年と、チェックリストで体制を確認し合う年を交互に行う。いずれも現地に立ち入る		選択肢	そう思う、どちらでもよい、そう思わない
3. 中長期的な提案についてお伺いします	3-1) 業務量は確実に増えているので、経営の課題を優先して医療安全の担当者を減らされないように、承認要件となる専従職員の職種や人数を増やしたり、病床数に合わせて人数を規定したりする。(専従事務を●名おく、専任と専従医師1名ずつにする、看護師の専従は●名以上とする、薬剤師以外のメディカルスタッフの専従を1名以上おく、など)		選択肢	そう思う、どちらでもよい、そう思わない
	3-2) 特定機能病院の見直しの中で、立ち入り、第三者評価、監査との違い、ピアレビューの目的と役割を明確化する		選択肢	そう思う、どちらでもよい、そう思わない
	3-3) 管理者や医療安全管理責任者についての要望に係る以下の提案についてお伺いします	3-3-1) 管理者や医療安全管理責任者の、全体の会議(特定機能病院医療安全連絡会議)への出席や、ピアレビューでの役割などを具体的にしてほしい	選択肢	そう思う、どちらでもよい、そう思わない
		3-3-2) 管理者や医療安全管理責任者の教育をより一層強化してほしい	選択肢	そう思う、どちらでもよい、そう思わない
		3-3-3) 管理者や医療安全管理責任者の資格条件を充実させてほしい	選択肢	そう思う、どちらでもよい、そう思わない
		3-4) 継続調査項目については、項目を決めて参加している特定機能病院が年次推移のデータを閲覧できるデータベースを作る	選択肢	そう思う、どちらでもよい、そう思わない
		3-5) 全ての特定機能病院間でピアレビューを行うなら、厚生局管内あるいは2～3の近隣の厚生局管内グループを組み合わせ実施し、事務局を持ち回りとする	選択肢	そう思う、どちらでもよい、そう思わない

4. 現行のピアレビューについて下記質問についてご意見をお聞かせください	4-1) ピアレビューの内容を、自施設内でどのように公表・共有していますか		自由記載 (任意)	
	4-2) ピアレビューでしかできないこと、いいかえるとその他の評価システム(厚生局および保健所の立ち入り検査、監査委員会、第三者機関による評価)と比べて、ピアレビューに期待したいことは何でしょうか		自由記載 (任意)	
	4-3) 特定機能病院間ピアレビューが、医療安全上の改善(たとえば効率化や病院のコスト削減)につながった事例があったら教えてください		自由記載 (任意)	
	4-4) ピアレビュー以外に、他院との連携を強化するために行われている効果的な取り組みや有効に機能しているネットワークがあれば教えてください		自由記載 (任意)	
	4-5) 医療事故調査制度にかかる死亡事例の検討について、検討体制の情報共有、悩んだ事例の共有や事例検討へのアドバイスなどを、ピアレビューで行うことについて、どう思われますか？		自由記載 (任意)	
5. そのほかピアレビューに関して、ご意見があれば何なりとお聞かせください。			自由記載 (任意)	
後日、詳しい情報をお伺いする二次調査員ご協力いただけますか？			選択肢	協力してもいい、協力したくない